
竹取シンデレラ

なんかいろいろ病んでる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

竹取シンデレラ

【Nコード】

N2077Y

【作者名】

なんかいろいろ病んでる

【あらすじ】

あの竹取物語とシンデレラのコラボ！？
なんかCMで見たことあるような気がするけど、結構真剣ストーリーです

（前書き）

どうも初めましてなんかいろいろ病んでるです。

名前がなげえよ！って人はいいいあだ名つけてください（笑）

今回は竹取物語とシンデレラを混ぜた話を創ってみた訳ですがいろいろと超展開です（汗）

汚い文章ではございますがよろしかったら読んでみてください m

（――） m

ではでは始まり始まり～

昔昔あるところにお爺さんとその娘と孫娘がいました。

ある日お爺さんは竹林へ、娘と孫娘は町へ遊びに行った時お爺さんは竹林の中に光る竹を見つけました。

それを斧で割ったところ中からそれはそれは美しい女の子が出てきました。

お爺さんはその子を家へ連れ帰り育てようとしたが、娘たちから大反対を受けました。

しかしお爺さんはその子を育てることにし、その子をシンデレラと名付けとても大事に育てました。

シンデレラは娘たちから冷たい視線や陰湿な虐めにあいながらもすくすく成長し、とても美しい娘になりました。

しかしある日、お爺さんが寿命で亡くなってしまいました。

娘たちはこれを機にシンデレラを家から追い出そうとしましたが、お爺さんの遺言でシンデレラを家族の一員とすることを条件に遺産をもらうことになっていたのでシンデレラを家にいさせることにしました。

しかしシンデレラは義母と義姉にひどい虐めをうけていました。

そんなある日シンデレラの噂を聞き付けた貴族の息子達がシンデレラを一目見ようと家にやって来ました。

自分を差し置き、貴族に言い寄られるシンデレラを見た義姉と義母

は怒り狂いシンデレラを地下牢に閉じ込めてしまいました。

そして義姉はシンデレラになりすまし、貴族と結婚しようとしたが、義姉を見た貴族達は「なんだ、こんなものか」と拍子抜けし、帰っていきました。

これにますます腹をたてた義母と義姉はシンデレラを奴隷のように扱うようになりました。

そしてある日のこと町へ買い物に出掛けていたシンデレラはたまたま町に遊びに来ていた王子様に出会いました。

二人は出会った瞬間恋に落ちました。

しかしシンデレラは家での自分の立場、そして秘密の理由から、王子様は王族としての立場から諦めるしかありませんでした。

しかしどうしても諦めきれない王子様はせめて舞踏会を開き、シンデレラと一緒に踊ろうとしました。

そして舞踏会当日、シンデレラの義母と義姉は王子様、もしくは他の貴族から見初められてもらったため綺麗なドレスに身を包み舞踏会へ出掛けていきました。

シンデレラもちろん舞踏会へ行きたかったのですが義母達から留守番するように言われたので留守番をしなければならず、行けませんでした。

シンデレラが王子様への想いを募らせ、ため息を吐きながら家の掃除をしていたところ、家に奇妙な老婆が訪ねてきました。

その老婆が言うにはシンデレラがある約束をしたら舞踏会に連れて

いってもらおうというものでした。

シンデレラは悩みましたが、愛する王子様に会うため約束をすることにしました。

そして老婆はネズミを白馬に、カボチャを綺麗な馬車にしてシンデレラにそれはそれは美しいドレスを着せ、最後にこう言いました。「いいですか、貴女が舞踏会にいられるのは12時まで。12時になつたらこちらへ戻ってきてください。」

シンデレラはそれに答え、馬車に乗って舞踏会へと向かいました。

その頃王子様は舞踏会で1人退屈にしていました。

なぜなら期待していたシンデレラが舞踏会にこず、代わりにシンデレラの義母と義姉がしつこく言い寄ってきたからです。

「はあ、舞踏会失敗だったかな」などと思って落ち込んでいたところ1人の娘が近づいてきました。

「私と一緒に踊っていただけませんか？」そう言った娘は舞踏会に来ていた誰よりも美しく、誰よりも綺麗な声でした。

「ええ、喜んで」そう言って王子様は綺麗なドレスに身を包んだシンデレラと踊り始めました。

その二人の姿はとても美しく、最初は驚き、嫉妬していた義母達も見とれてしまうほどでした。

しかし王子様はどうしても気になることがありシンデレラに聞きました。

「どうして君はそんな悲しそうな顔をしているんだい？」

シンデレラはなにも答えずただ 悲しそうな顔のまま微笑みかけるだけでした。

そうして二人のダンスをしていると12を知らせる鐘が鳴り響いてきました。

それを聞いたシンデレラは「帰らなくちゃ」と言い、駆け出そうとしました。

しかし王子様はシンデレラの手を握りしめ「何があるのか教えてくれ！私はそれを聞くまで君を帰さない！」と言いました。

しかしシンデレラは悲しそうな顔のまま、ただ「帰らなくちゃいけないんです」と繰り返すばかり。

そんなシンデレラをみた王子様は自分の気持ちをこらえきれず「私は君が好きなんだ！だから君のことすべてを教えてくれ！」と告白しました。

それを聞いたシンデレラはついに泣き出してしまい、王子様に打ち明けました。

「私は実は月の姫で、今日舞踏会に連れてきてもらう代わりに今から月に帰らなくてはいけないのです。本当は貴方を好きになっでは行けなかった。私はいつか帰らなくてはいいけなかったから。」

泣きながらそう言うシンデレラに王子様は「ならば月になど帰らなければいい！ずっと私のそばにいてくれ！」そう言いました。

しかしシンデレラは首を横にふりながら「王子様のその心とても嬉

しく思います。私も王子様を愛しています。しかしもう遅いのです。月の迎えはもうすぐここに来るでしょう。」と言いました。

それを聞いた王子様は「ならば月の迎えなど追い返してやる！」と言い、執事たちに兵を揃えるように言いました。

それから数刻、ドレスの魔法が切れ王子様が用意した違うドレスに身を包んだシンデレラと鎧に着替えた王子様は城の上で月の迎えを待っていました。

そしてついに空から月の迎えが来ました。

「来たぞ！皆のもの！迎え撃て！」王子様はそう叫びました。

兵士たちも雄叫びを挙げながら月の迎えに突撃しようとしたましたが、全員止まってしまいました。なぜなら月の迎え達はおもわずみとれてしまうほど美しかったからです。

月の迎えに見とれてしまい動けなくなった兵士たちを尻目に月の迎え達はシンデレラに近づいてきました。

そしてこの世のものとは思えないような美しい声で「シンデレラよ、さあ帰りましょう」
そう言いました。

シンデレラはただうなずき近寄って行きました。
王子様は涙を流し行かないでくれと叫びました。

するとシンデレラは振り返り今までのどの顔より素敵で微笑み、自分の履いていたガラスの靴を王子様に渡しました。

「もし、生まれ変わってこの地に産まれてきたらこの靴で私を探してください。この靴は私にしか履くことはできません。もし私を見つけれたらまた私を愛してください。」そう言ってシンデレラは月の迎えと一緒に帰っていきました。

王子様はそれから誰とも結婚せず仕事の傍らにガラスの靴を履ける人間を探しましたがついに探し当てることなく生涯を過ごしました。

それから数百年後、革命が起き民主制となった国のあるお金持ちの家にそれは綺麗なガラスの靴がありました。

そしてその家の息子の嫁を決めるための舞踏会が開かれ、沢山の人々が今は踊り場として利用されている元王族の城に集まりました。

しかし息子に近寄って来るのは家の財産目当ての女ばかり。

息子が「はあ、舞踏会失敗だったかな」などと思い落ち込んでいたところ1人の娘が近づいてきました。

「私と一緒に踊っていただけませんか？」そう言った娘は舞踏会に来ていた誰よりも美しく、誰よりも綺麗な声でした。

「ええ、喜んで」

息子はその娘を見た瞬間そう答えていました。

二人のダンスは誰よりも美しく、誰よりも愉しそうでした。

後日その娘がガラスの靴を履けたのはいうまでもないでしょう。

めでたしめでたし

お
し
ま
い

（後書き）

いかがだったでしょうか？

お褒めの言葉、叱咤の言葉どちらも応募しております。

また他にコラボしてほしいものがあつたら言ってください
出来そうだったら描いてみますので

ではではおしまいおしまい

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2077y/>

竹取シンデレラ

2011年11月4日08時17分発行